

水戸生涯学習センター 渡邊和重さん(五十代)

当時は私は那珂市に勤務していて、那珂市の方に翌日行ったら、水害がありましたけど、川沿いのところ以外は平気な状態だったので、いかに大子町がひどかったのかっていうのはわかりました。

雨がやんでから水位が上がった

工場の壁が倒れているような写真があります。あの辺は標高が低くて、一九八〇年代にも大雨が出て一回水没しているんです。なので地元のものはおそこと二つの川の合流地点はだめだと…。ただ昔からの言い伝えでそこ以外は大丈夫だろうとたかをくくってました。そうしましたところ、我が家も床下浸水で、車も四台のうち三台は車の床上浸水でした。ちょうど夜中の二時ごろです。雨がやんで、もう増水しないだろうと思っていました。そうしたら、なんかおかしいなって思っを外を見たらもう三十分くらいで四十センチくらい水位がぐーっと上がってきまして「こりゃあまらずいだろ」っていうことで…。そして翌日明るくなってきたらとんでもない状況になっていました。



水の勢いで倒れた塀

川からあふれた水が戻る流れで被害に

ちょうど川が決壊したところは、用水路みたいなところから逆流してのルートで来たんだと思います。石が倒れてたところ、塀が倒れてたところはその逆流して流入した水がちょうど川への出口になるところだと考えます。「ぐるーっ」と土地を回って、水も高いところから低いところ行くのでちょうど流れが川に戻ろうとしたような…。だからただ決壊して押し寄せるじゃなくて、その水が逃げようとしての災害だったのかと思っってます。



被災ごみの集積場

被災後は疲労がひどかった

ごみを投げ捨てる写真があったと思うんですけども、我が家も何回かごみ運びしたんですが、もう地域住民の方々、ほんと疲れてて、ごみを捨てる気力もない感じでした。食料も手に入らなくて、コメ農家さんが多いので備蓄はあるだろうと思うんですけど、我が家なんかはコメをしまっておく小屋自体がやられてしまいました。そんなこともあって、伝えていかなければならない災害だと感じました。